

「運転中 スマホ操作は 絶対やめて！危険は検索できません」平成29年度最優秀交通安全標語

大型連休後の注意力が散漫になりがちな5月ですが、交通事故の発生はゼロでした。今後も「交通事故ゼロ」を目指し慎重な運転を継続して下さい。

さて、6月は梅雨入りとなり雨の多い季節となります。北海道を除けば40日くらいつづきます。一年中でもっとも降雨量が多い時期であるとともに、交通事故も増加する季節です。雨が降っているのに、晴天時と同じ気持ちで運転していると思わぬ事故につながります。雨天時の事故を防ぐためのポイントは、とにかく雨がふったらスピードを落とすことです。そこで今月は、雨天時の安全走行のポイントについて考えてみましょう。

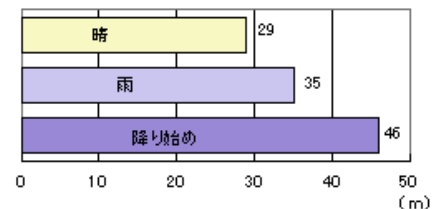
1. 雨天時の安全走行

1. 特にすべりやすい「ふりはじめ」

とりわけ路面が滑りやすいのは、雨のふりはじめです。雨がふりはじめると、路面のホコリ等が水に濡れ、潤滑油ようになって路面の凸凹に入り込むため、雨が降り続いた状態よりもかえって滑りやすい状態になります。

また、路面に描かれた横断歩道などのペイントの上やマンホールのフタは、非常にスリップしやすいので、気をつけましょう。

60km/h時における道路状態と停止距離



* ABS作動時は8～9割の停止距離になります

2. 「視界の確保」は安全運転の基本です

雨天時の走行中に、もっとも大切なことは「視界の確保」です。経験のあるドライバーも少なくないと思いますが、ワイパーの能力には限界があって、ワイパーの動き以上の水量になると、前方が非常に見えにくい状態になります。ワイパーの能力にあわせて、視界が確保できるようスピードを落としましょう。

また、市販のはっ水剤を利用するのも雨天の視界確保に効果的です。

はっ水剤を塗ったガラス面は水滴をよく弾き水滴はフロントガラスの表面を非常に早く滑り落ちるので、視界の確保に役立ちます。

また、フロントガラス以外のサイドミラーなどにも使用すると安全性をいっそう高められます。ただし、はっ水剤を利用する場合、ムラがあると、かえって雨滴がガラス上に溜まってしまいますので、注意が必要です。



3. 雨あしが強くなっても、走行を続ける場合は……

事故を起こしやすくなるため、次の点に注意しましょう。

- ・速度を落とし、車間距離を十分にとりましょう

前の車や横の車の水しぶきで視界が悪く、タイヤと道路の間に水の層ができてスリップしやすい状態になり、事故を起こす危険性があります。

- ・停止するときは急ブレーキを避けましょう

ブレーキの効きが悪くなっている危険性があります。停止するときは、数回にわけてブレーキを踏み込み、徐々に速度を落としましょう。



4. 道路が冠水したら……

水かさが増して、マフラー(30cm程度の高さ)から水が入ると、エンジンの排気ができずにだんだん調子が悪くなり、エンジンが停止してしまうおそれがあります。さらに、水かさか30cmを超え、水の流れがジョギングくらいの速さ(7km/h以上)になると、車が流されてしまう危険性があります。

- ・エンジンを停止しましょう

感電を防ぐために、エンジンを停止しましょう。

- ・ドアを開けて外に脱出しましょう

水かさかドアの下(30cm程度の高さ)より上に上がると、水圧でドアを開けることが難しくなってきます。しかし、車内に水が入り始めると、車の中と外の圧力差が小さくなり、ドアが開きやすくなります。パニックを起こさず、落ち着いて脱出しましょう。

- ・どうしてもドアが開かない場合は、窓を開けるか窓ガラスを壊して外に脱出しましょう

万に備え、窓ガラス破碎用のハンマーを常備しておきましょう。



5. 外に出て避難するときは……

水がにごっていて、障害物やマンホールのふたが開いていることに気づかないおそれがあります。

- ・足元を確認しながら避難しましょう

車の外に出るときは、傘や棒などで道をたたき、足元を確認しながら避難しましょう。

*豪雨になるおそれがある場合は、車の使用を控えましょう。

*走行中に豪雨にあった場合は、すぐに車を安全な場所に移動して停止しましょう。

Ⅱ. 今月のスローガン (企業開発センター交通問題研究室)

雨の道 ライト点灯
スピードダウン